

2012年 文部科学省

グローバル人材育成推進事業採択

TOEIC
進級要件

海外派遣

大学院授業
完全英語化



東京海洋大学グローバル人材育成 推進事業の概要 (海洋科学部長 木村 凡)

主な取組部局

海洋科学部

〔博士前期課程〕海洋生命科学専攻、食機能保全科学専攻、
海洋環境保全学専攻、海洋管理政策学専攻



国立大学法人 東京海洋大学

構 想 の 概 要

第2期中期目標において、海洋(水産・海事・海洋)に関して国際的に卓越した教育研究拠点を目指すことを最重要項目として掲げている。そのために英語力の育成とグローバルな観点から行動する学生の育成が急務であり、学部から大学院までの一体化した以下のプログラムを導入することが不可欠である

大きな改革の柱、「3大改革」

- 1 TOEICスコア600点の学部4年次への進級要件化
(大学として数値で示す着地点の明確化)
- 2 学部3年次での海外派遣型キャリア演習の新設
(グローバル視点での自己キャリア啓発と異文化交流活動、SEND)
- 3 大学院前期課程授業の完全英語化
(+英語による討論型授業)

前項3大改革に加え、以下の教育改革も実施

- 4 グローバル人材展開で不可欠な異文化間の相互理解
(学部、大学院共通科目として、留学生との異文化討論型授業の新設)
- 5 中国、タイ、インドネシア、ベトナム語の特別語学プログラムを開設する
(学部と大学院を問わず常時開講、教員・事務職員の受講も推奨)



学部

1 TOEICスコア600点の学部4年次への進級要件化 (大学として数値で示す着地点の明確化)

現在の日本の大学の学士教育として、
「英語の基礎力」

十分にその社会ニーズにこたえられて
いない現状

高度教育機関としての使命を果たす

大学が明確な着地点を示す
必要があると判断

なぜTOEIC？

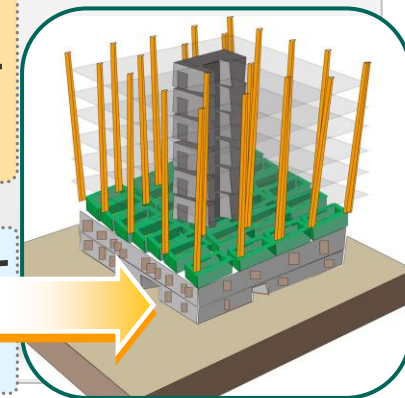


産業界に直結した活躍を
学生時代から意識させる
(本学の伝統、強み)

なぜ600点？

本学の
グローバル人材
育成計画

学部3年までは
基礎工事段階



3大改革 その1



大きな改革の柱、「3大改革」

1

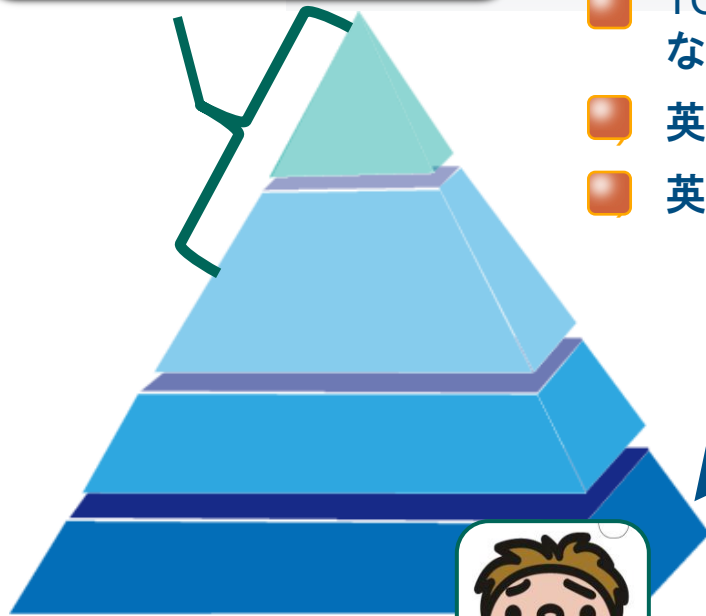
TOEICスコア600点の学部4年次への進級要件化
(大学として数値で示す着地点の明確化)



中～上級クラス
700点以上を
卒業時まで

強力な学習支援体制を構築

- 自律的に学習ができるeラーニングシステム、自習室設置
- TOEIC 学習専門の統括英語教員、非常勤英語教員4名を新たな雇用
- 英語学習アドバイザー制度(外部委託、常駐2名)を導入
- 英語を学ぶ動機づけ(学部専門教員、入学時初期教育)



英語が苦手な学生に基準達成をさせるために

- 1年次修了時のスコアが、400点に満たない学生
TOEIC 集中特別クラスTOEIC500 クラス
- 2年次終了の時点で、500点に満たない学生
TOEIC 追い込みクラスを開講
(500点以下クラスと500点以上クラスに分ける)

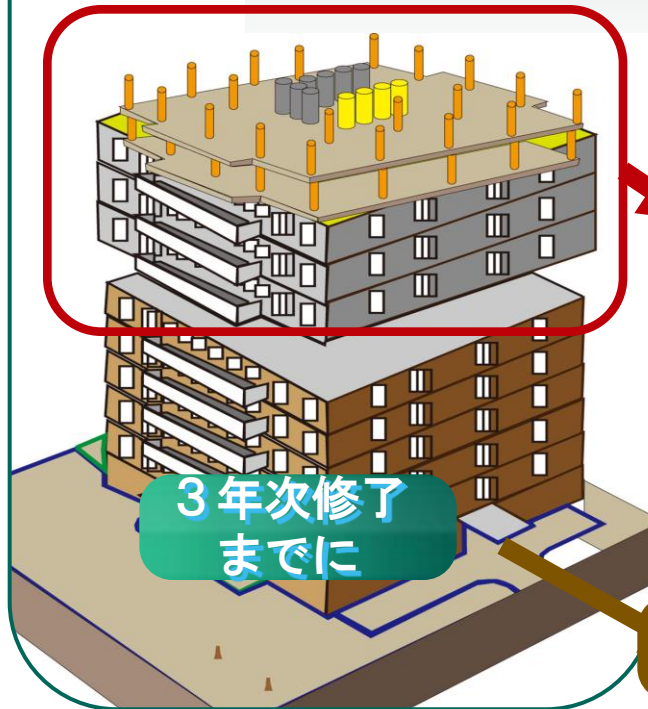
3大改革 その2

学部

2

学部3，4年次での海外派遣型キャリア演習の新設
(グローバル視点での自己キャリア啓発と異文化交流活動、SEND)

中間層工事段階



今後の
日本経済

成長軌道に乗せるためには、
新興アジア経済との連携が急務

アジア言語（中国語、タイ語、インド
ネシア語、ベトナム語等）

+

異文化理解能力

+

アジア諸国の現地ニーズ発掘力

その上に

TOEIC 600点(最低英語基礎力)

3大改革 その2



大きな改革の柱、「3大改革」

2

学部3年次での海外派遣型キャリア演習の新設
(グローバル視点での自己キャリア啓発と異文化交流活動、SEND)

モチベーションが低い学生が海外へ出るのは危険(ホストにも迷惑)

3年次進級までに下記のような条件を課す。

- ① TOEIC 600 点およびGPA 3.2以上
- ② 派遣希望国の言語基礎クラスの単位認定
- ③ 異文化討論型授業の受講



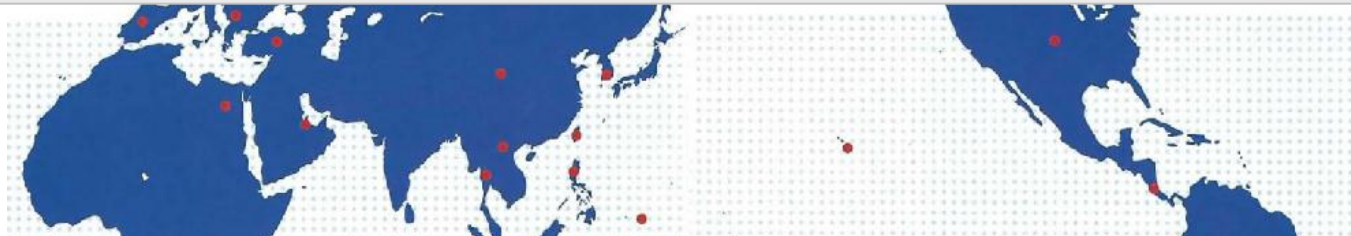
キャリア演習実行委員会
・国際化推進室特任教授
・協定国窓口教員
・学科長の面接(志望動機)



出国までの間、
英語を話す能力育成
少人数教育の受講

派遣国

学生の派遣先は、中国、アセアン諸国に限定せず、**幅広く世界各地へ派遣**する。



その他留学可能な学生交流協定校 33 大学

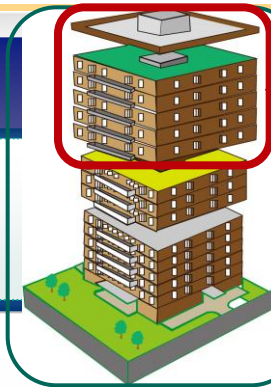
幅広い分野の交流が既に進んでいる

3大改革 その3

大学院（博士前期課程）

3

大学院前期課程授業の完全英語化 （＋英語による討論型授業）

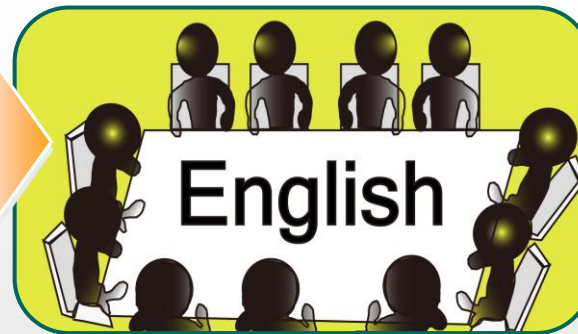


完成！

日本人の学生を国際的に通用する人材にするために、

**積極的に留学生を
活用**

し、日本人学生と留学生に英語による活発な討論を行わせる。



専門領域において

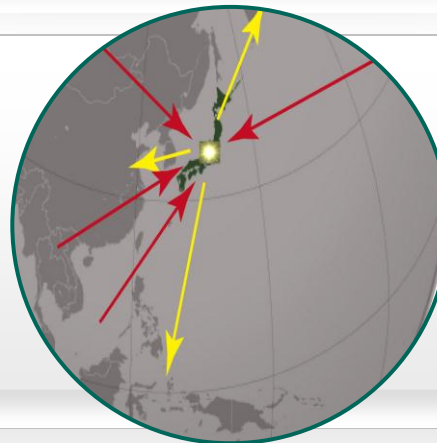
**国際的にリーダー
シップ**

をとる英語スキルと
論理的な自己表現力

今後、東京海洋大学が国際競争で
勝ち残るには、グローバルな

人材ハブ機能

としての役割が不可欠である。

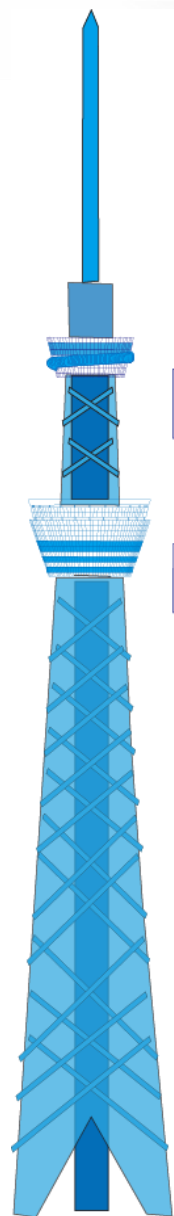


大学院授業の完全英語化と討論
型授業への切り替えは、

**国境を越えた優秀な頭脳を本学
に呼び込む切り札**

にもなる。

平成25年4月入学生からカリキュラム導入



展望回廊
大学院レベルでの
高度な論理的英語討論力

展望デッキ
グローバル視野で
キャリアを見渡せる学士力

基礎工事

STEP 3



STEP 2



STEP 1



大学院（博士前期課程）授業の完全英語化

博士前期課程

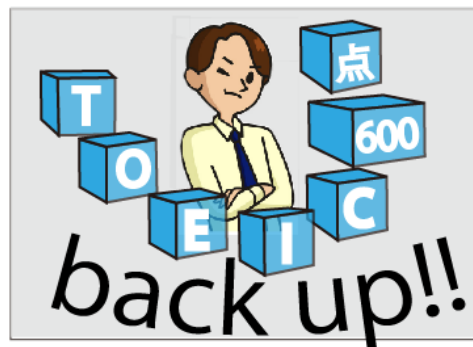
大学院授業の
完全英語化



学部3, 4年次での海外派遣型キャリア演習

3年次、4年次

海外派遣型
キャリア演習
(選択科目)



学部4年次へのTOEICスコア600点の進級要件化

3年次から4年次へ

TOEIC スコアの
進級要件化



平成26年4月入学生から

これから目指すべきこと

海洋科学部のグローバル人材育成
の取り組み

他の日本の理系大学（国立大学法人、私立大学）が活用できるグローバル化ロールモデルを示す。

同時に

他大学からの取り組みからも、学ぶべきところを積極的に取り入れ、さらに発展させていく計画

国際競争力の中で埋没しないように
問われる日本の大学の
グローバル改革幅の大きさとスピード感